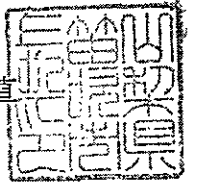


笛土第 10-42 号

平成20年10月22日

国土交通省道路局長殿

笛吹市長 荻野 正直



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（報告）

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼のありました、標記について、別添により報告致します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

山梨県笛吹市

道路特に幹線道路や地域高規格道路の整備は、地域間格差への対応や生活者重視の視点を踏まえ、地域活性化やその自立に必要な幹線道路の整備は必要不可欠であります。

特に、周囲を山々に囲まれた本県では、人や物の移動の多くを自動車交通に頼らざるを得ない状況にもかかわらず、道路整備は依然として立ち遅れています。

このため、道路整備に対する住民の要望は年々高くなっており、重要かつ緊急の課題となっている現状であります。

又、道路整備の遅れから生ずる慢性的な渋滞は、環境問題にも発展し自動車 CO₂の排出率は県全体の43%を占め、さらに渋滞による人口1人あたりの損失額も全国でワースト3位となっております。

現在、山梨県では新山梨環状道路の北部区間においては環境影響評価及び都市計画決定手続きを実施中であり、南部区間においても平成20年度全線供用開始に向け着工中でもあります。さらには本市と特に関係の深い東部区間においても環境影響評価を実施中ではありますが、北部区間及び東部区間は、依然として事業化の見込みがつかない状況であり、また、西関東連絡道路は、山梨市万力以東の整備区間への格上げについても停滞している状況である為、早期事業化、完成による慢性的な渋滞の解消や交通事故の減少、発災時の緊急輸送等多くの効果が期待せれており、その早期完成が望まれるところであり、道路特定財源制度の目的から逸脱した支出、無駄な支出の根絶を図り地方の道路財源に活用されることを要望いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

様式 ②

山梨県笛吹市

○現状

本市は、東京と長野方面を結ぶ基幹交通軸上に位置し、鉄道や高速道路で都心から1～2時間の距離にあり、市内には国道20号をはじめ複数の国道や県道が走り、今後も幹線道路網の整備充実が予定されるなど、自動車交通の利便性は高まる傾向にあります。

また、この地域は桃・ブドウ生産量日本一の生産を誇る一大果実郷であることと、石和・春日居温泉郷を有し、年間を通して多くの観光客が、自動車交通を中心に訪れる地域でもあります。

さらに、山梨リニア実験線で行われている超電導磁気浮上式鉄道は運行区間の延伸と実用化が進められ、東海旅客鉄道株式会社が営業運転開始の目標を2025年とするなど、実用化が現実のものとなりつつあります。

○課題

このように、交通環境が変化する中で、通過交通と地域内交通の調整、通勤・通学や観光シーズン等における交通混雑の緩和などの課題に対応しつつ、市内各地域を円滑につなぐ交通ネットワークを維持、向上していくことが必要で、特に地方におけるバス路線の維持が難しい時代を迎え、車を運転しない子供や高齢者、観光客などの移動手段を確保出来る交通環境の整備が求められています。

少子高齢化や高度情報化、国際化、地球規模での環境問題、社会経済構造の急激な変革や分権型社会への移行など、本市を取り巻く状況は大きく変化している中で、様々な状況の変化に的確に対応しながら、自己決定と自己責任に基づく自立した都市の創造と、これまで以上に地域の特性を活かした個性あふれる魅力ある地域を形成していくことが求められている。そこで市民や地域、産業など調和の取れたまちづくりを進めつつ、将来像とその実現に向けた計画的な取り組みを図るため「まちづくりの理念」として、市の将来像を次に掲げ取り組むこととしています。

1. 活力ある交流都市の創造

- ・自然、歴史、文化、産業、生活の多様性を守り、育み、活かし“市民一人ひとり、地域の一つひとつ、産業の一つひとつが元気なまち”をつくります。
- ・大都市圏と近接した地理条件などを活かし、“人、もの、情報等が行き交い、豊かさを生むまち”をつくります。

2. 快適な生活都市の創造

- ・様々な災害や犯罪を防ぎ、市民、事業者、行政などを問わずそれぞれが互いに守り合う安全なまちをつくります。
- ・子どもから大人まで、すべての市民が安心して生き生きと過ごせるまちをつくります。
- ・水と緑がさわやかで、環境にやさしい、住む人にも訪れる人にも快適で過ごしやすいまちをつくります。

3. 個性輝く自立都市の創造

- ・まちづくりは人づくりという考え方のもと市民一人ひとりが主人公として生活し、自らの夢を実現できるまちをつくります。
- ・市民、事業者、行政が目標を共有し、互いに役割を発揮する参加、協働によるまちをつくります。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

山梨県笛吹市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・公共交通の充実を	公共交通に対する投資は少なく、公共交通機関は原則として運賃収入に頼る厳しい経営を迫られています。特に地方では、赤字ローカル線の切捨てが進み、本市をはじめ、多くの自治体は、公共交通機関の赤字補填や市営バスの運行など余儀なくされ多くの財源を投入せざるを得ない状況になっている為、公共交通機関の充実のために必要な投資をお願いいたします。	公共交通機関の減少により自家用車を持たざるを得ない一因となっており、その結果交通渋滞や環境問題、交通事故の増加という悪影響をもたらしている。本市も市営バスの運行の充実やパーク＆ライドの取り組みなど進めつつありますが、その取組には限界があり、国を挙げて公共交通の充実を求めます。	
・まちづくり交付金等 道路整備事業の拡大補助率アップを	石和温泉の中心において観光客及び地域住民の為に散策路の整備として川沿い両サイドの遊歩道を約1kmに渡り設置し、安全、安心に散策が出来る様両サイドの市道も一方通行にした事により、桜の季節は花を見ながら又、川の流れを楽しみながらゆっくりくつろげる水辺の空間を作り上げた。	遊歩道を設置した事により自由に散策の出来るようになり、観光客、地域住民より大変喜ばれている。これによって今後さら親しみやすい観光地作りが期待される。	